

春山純志研究室の研究論文が 『Nature Nanotechnology』誌に掲載

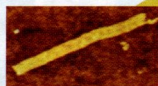
理工学部・春山純志研究室の研究論文（米国・ライス大学スモーレー研究所、産業技術総合研究所ナノカーボン応用センターとの共同研究）が、世界で最も権威のある英科学雑誌『Nature Nanotechnology』（1月1日発刊号）に掲載されました。

掲載論文は、研究対象として2010年ノーベル物理学賞に輝いた、今世界で最も注目されている物質「グラフェン」を短冊状に細く加工した「グラフェンナノリボン」について書かれたものです。従来とは異なる創成方法によって、高品質の「グラフェンナノリボン」を創成したことが述べられています。この研究成果は、効率の良い半導体的動作の実現につながるもので、今後、電子デバイスへの応用などが大いに期待されています。また、表紙や目次にも「グラフェンナノリボン」の文字が記されています。

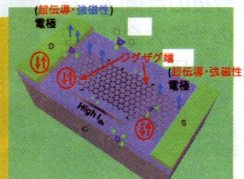
なお、この論文は、『Nature Nanotechnology』の誌面掲載に先立ち、12月19日付で同誌電子版にも掲載され、最近の同誌採択論文の中で最も意義のある論文として“Latest Highlights”にも選ばれました。



春山理工学部准教授



顕微鏡象



ナノリボンのトランジスタ例



カーボンナノチューブが開いてナノリボンになるところ